

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401277		
法人名	(有) あつぷる		
事業所名	グループホーム ありあけ		
所在地	島原市有明町大三東丙470番地1		
自己評価作成日	平成27年8月18日	評価結果確定日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&jigyosyoCd=4271401277-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成27年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員同士のコミュニケーションが良く毎日入所者を交え笑顔がたえません。 ご近所から野菜の差し入れも頻繁に有りますぐ食事に取り入れています。

家族との交流も大切にしており面会時等 いっしょに食事やおやつも食べてもらうことが多々あります。床掃除は毎日手拭で行い創立以来一度もワックス掛けをした事はありません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔」を大事にしたいとの代表の想いの籠った理念は職員に浸透し、毎日の支援に反映されている。職員のアイデアが詰まった手作りの品々や、職員の明るい笑顔が家庭的な雰囲気を作っている。また、スプーンからお箸で食事を食べる事が出来るようになる等、可能な限り残存能力を生かす支援を行っている。昔からの知り合いが多いという地域性もあり、地域住民との継続的な交流が保たれ、利用者は穏やかで安心した暮らしを続けている。これは、全て理念に基づいた支援であり、利用者の笑顔に繋がっている。また、職員間の関係が良好で、申し送りを大きな付箋紙で共有する等、一人ひとりに対応した細やかな支援を行っている。職員は、和気あいあいとした雰囲気の中、活き活きと利用者を支援している。笑い声が絶えない、明るく笑顔溢れる施設である。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、利用者と職員がなじみの関係をつくり毎日を笑顔で暮らしていけるように努めています。	「笑顔」を大事にしたいとの代表の想いを込めた理念は設立時に職員全員で作成された。理念を5項目の理解しやすい言葉で表し、毎月の職員会議や日常会話の中で管理者が理念について話しをしている。職員は理念に基づいた支援を実践し、それが利用者の笑顔に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の回覧板でホーム便りを回してもらい様子を知らせたり、毎週ゴミ置き場の掃除を行なってます。小学生が遊びにきたり、園児が散歩で花を見に来ています。お隣さんからの野菜 花などの差し入れも多いです。	公民館への近道に施設の敷地を地域に解放し、通りがかりの子ども達や近所の人々が気楽に立ち寄る環境を作っている。地域の人からの野菜や手作りジャム等の差し入れがあり、地域の人が施設の庭に咲くいろいろな花を見に来る等、理念に基づき普段の暮らしの中で隣近所の人とふれあう機会を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い市役所 自治会長 前会長 ご家族に多数参加して頂き情報交換を行っている。毎回テーマを決め施設の現状の報告をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいる内容について報告し、会議のメンバーから率直な意見をもらいサービス向上に活かしている。	市の職員や自治会長、家族が参加している。昔からの知り合いが多いという地域性もあり、和やかな雰囲気の中で意見を言いやすい環境を作っている。退院後の心配事や看取りについての質問に答える等、双方向的な会議になっている。議事録を玄関前に掲示し、地域の理解と支援を得るための働きかけを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席してもらい相談事項にも実直に対応してもらっている。	有明支所が近くにあり、介護保険改正前の同意書についての相談や報告書の提出時、申請代行時等で頻繁に有明支所を訪れ市職員と顔なじみの関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	怪我した人にミトンを使用した期間があったが短期間でやめ拘束ゼロを目指しております。その日の状態を全員で申し送りやノートを使い、きめ細かく安全面に配慮し全出入りに施錠せず自由な暮らしを支援しています。	利用者の不安な様子を察知したら、職員が一緒に家の近くまで散歩する、ベッドから転落しそうな利用者の部屋には畳みを敷き布団に寝て頂く等、利用者の状態を申し送りや日誌に記録してリビングの棚に置き、職員間で情報を共有し、職員会議で支援方法を話し合っている。外部研修にも積極的に参加し、安全で安心した自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修等に参加し職員会議で報告。資料も見られるようにしている。職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響しないよう定期的に食事会をもうけ話を聞くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほとんどの職員が研修等で学んでおり制度のことは理解できている。入所前に代理人を定め、管理されているので今の所、活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する考え方や取り組み、対応可能な範囲についての説明を行っている。制度改正、利用料の値上げなどは、文章で通達し個別の相談も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には必ず職員が利用者の状態を説明し、ほとんどリビングで職員も一緒に会話に入り意見、要望等を気軽に話せる雰囲気になっている。	家族の面会時には昼食やおやつを利用者や職員と一緒に食べながらゆっくりと話す時間を取り、利用者の状態報告や家族の意見、要望を引き出す努力をしている。寝たきりだが、リビングで過ごす時間を作って欲しいとの要望に、声をかけながらリビングで過ごすことで発語が増えた例もある。また、家族が、夜間でも気楽に立寄れる環境も整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は全員参加できるよう職員に合わせ日にちを決めている。一人ひとりが意見を言える体制を作り、意見、提案は皆が同意し可能なことは、すぐ実践している。	代表や管理者は、職員会議や日常生活の中で職員の意見やアイデアを聞き、利用者一人ひとりに対応できる環境を作っている。職員の意見で浴室に棚を作り浴室内のスペースを確保し、車いすで利用しやすいようにする、職員の提案で廊下に面した中庭に流しや洗濯機を置く場所を作る等、職員の意見を取り入れ、働きやすいように改築を重ねている。それが職員の働く意欲の向上や質の確保に繋がっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。年数回の食事会を行いストレス発散と心のケアの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容をボードに貼り受講を勧めている。研修報告は月1回の職員会議で報告し皆で閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会がありスタッフ研修に参加し、グループワークなどで意見交換でお互いの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必ず本人と面談し本人が置かれている状況を理解し思いや不安を受け止めて安心してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前にご家族の話をしっかり聞き、要望 意見 不安に思っている事に耳を傾け信頼関係を築いていきサービスプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、ほかの事業所のサービスにつなげるなどの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に過ごし本人の立場に立って、出来る事 出来ない事を考え役割を持ってもらうようにしている。普段から教えてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には日頃の状態を報告し、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。来訪出来ない家族には家まで会いに連れて行く事もあり、生活の様子を撮影して写真を郵送しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす友人が会いに来てくれたり、今迄利用していた理容院の方に来てもらい散髪してもらっています。	家族から、利用者の馴染みの物やこだわりを聞き、今までの生活習慣を把握している。地域住民が立寄りやすい環境を作り地域住民との交流が継続できるように支援している。電車で利用者に会いに来る友人と和やかに会話できるように職員が間に入り会話を繋ぐ、娘に手紙を書いたり電話で話す機会を持つ等、繋がりを継続できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さん穏やかで利用者同士の関係はうまくいっています。毎日のお茶や食事の時間は一緒に多くの会話を持つようにして、さらに関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気の為退所されても面会に行ったりして継続的な付き合いが出来るように心掛け、家族からの相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉にしづらい思いを日々の行動から汲み取り、どのように暮らすことが最良なのか家族と一緒に検討している。入所時、全スタッフにセンター方式(私の姿と気持ちシート)を記入してもらっている。	入所時のアセスメントを行う時にセンター方式を用い、一人一人の生い立ちや性格を知り思いや希望、意向の把握に努めている。また、日々の関わりの中からも意向を汲み取り、その人に合ったケアを寄り添って行っている。利用者からの「ドライブの時に皆にお土産を買いたいけど、どうしたらいい。」との相談を家族に伝え、お小遣い持参にもらった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が本人や家族など馴染みの関係を築きながら日々の中でこれまでの暮らしについて話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の過ごし方や、状態を朝夕の勤務交替時、申し送りや連絡ノートを使い、全職員で把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回の見直しを行い、毎日の暮らしをもとに職員の記録を参考にし、全体会議で職員から提案があった内容を職員で検討し次の介護計画に活かしている。	モニタリングは、3か月に1回行っている。毎月行われる職員会議に於いて、翌月に短期目標が切れる方を中心に検討会議を行っている。日々の看護・介護日誌より、介護支援専門員が、特記にラインマーカーを付け検討事項が見やすい工夫が成されている。廊下の歩行訓練の回数を増やしたり、車いすの使用を検討した事例がある。申し送り等はノートとは別に大きな付箋紙のメモにて職員全員が、即日周知できるものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録に記載し職員間の情報の共有を徹底している。記録は午前と午後に分けて行っていて、これをもとに介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身の回りの買い物や、通院の送迎など必要な支援は柔軟に対応し、家族の負担にならないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容院の訪問サービスを利用したり地域のシルバーさんに、庭の手入れや野菜作りを手伝ってもらい、収穫や花見などを楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診、往診してもらったこともある。緊急時は家族も同行するが、同行困難な家族がほとんどのため職員が同行し、受診後 結果報告を行う。(定期受診以外)	受診は、入所前のかかりつけ医を基本としている。人工透析を受ける利用者が3名いて、家族の対応が厳しく、職員が同行している。定期受診が必要な方々は、日々の特変に留意し、看護師や医師との連携を密に図っている。肩の痛み等での緊急時の受診には、受診後必ず家族に結果報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており利用者の健康管理には気をつけ、早期発見に取り組んでいる。夜間でも看護職員に報告し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に情報を伝えている。職員が積極的に見舞いに行っており、家族と回復状況などの情報交換をし、速やかな退院支援に結び付けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携し安心した終末を迎えられるように随時、意思 確認しながら取り組んでいる。	入所時に「看取りに関する指針」を説明し、主旨等を理解した同意書を得ている。現在までに2名の方を施設より、お見送りしたとのことである。最後はこちらでという本人や家族の意を汲み取り、職員全員で介護にあたっている。緊急時に備え今年度の7月からは、宿直を1名増員し、計2名体制の夜間帯配置となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加してもらったり、地域の各種団体での訓練にも参加しています。緊急時のマニュアルを作成しすぐ対応できるよう看護師より学び職員会議のときにも話しあっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	自治会にホームだよりで協力を呼びかけたり、消防署の協力を得て定期的に避難訓練を行っています。避難経路の確認、消化器の使い方などの指導を受けています。庭先に倉庫を設け災害時の備品などの準備をしている。	出火元を3箇所想定した避難経路を施設内に掲示し、いかなる場合でも利用者が避難できる方法を職員全員が周知している。夜間を想定した避難訓練を遅出職員・夜勤者と共に16時に行っている。地域住民の方々も高齢となり、災害訓練に対する積極的な参加はないが、運営推進会議や広報誌の「ありあけ」にて非常災害時の協力をお願いしている。備蓄品の米や水も定期的に入れ替えを行っている。	防火計画の作成と訓練は、行われているが、防災については行っていないので、今後防災計画の作成と訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的な会話の中で職員が、利用者に向けて発している言葉の内容や語調などが、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねるものにならないよう心掛ける。	「独自の生活歴を有する個人として尊重され、プライバシーを保ち、尊厳を維持すること。」を重要事項にうたい、遂行している。排泄時の声掛けも耳元でごく自然に行っている。パルーンカテーテルの利用者には、バックが見えないように職員手作りのカバーが付けられている。職員は、気配り・目配りを主とし、利用者が自己決定ができ、自分で生活していると感じられるような、さりげないケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類は、一緒に見てもらい決めている。本人の誕生日には、食事やケーキ、プレゼントの好みを聞き準備している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、個別の支援を行っている。入浴の曜日は職員で決めているが順番の要望は本人に確かめている。日中も休みたい時にはベッドで休めるように支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年々、重度化しており自分で服を出して着ることも難しくなっていますが、何枚か見せて決めてもらってます。手洗い時には、一緒に鏡を見ながら髪の乱れなどのチェックし整えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも過ごしているリビングの横で食事を作っており、毎日メニューを教えたり、座って出来る作業は手伝ってもらい、食事が出来るようになるのを楽しみにしてもらっている。	共用スペースの横が台所となっており、料理の音や匂いが日々感じられ、五感を刺激するものとなっており、調理形態も利用者に合わせて3形態となっている。残存機能を活かすという理念を基にスプーン利用者もできる限り箸に変更した支援を行っている。利用者もモヤシのひげを取ったり、シメジをさばいたり、庭の木の梅で梅干をつけたりと職員と一緒に料理の手伝いをし、楽しみの一つとなっている。同時に、できる方への役割としてのさりげない支援にもなっている。職員も利用者と共に食事を摂り、気配りを行いながらも共に楽しい時間を過ごしている。利用者の誕生日当日には、ケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析や糖尿病の利用者がいるため、病院の栄養指導を受けながら、食事への気配りや飲水量に気をつけ一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は見守り、出来ない方は洗面所で一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。週1回、口腔ケア用品の消毒と、義歯の消毒を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間をみて誘導したり、トイレでの排泄を大切にパット類も本人に合わせて使っている。排便も病院と薬の調整をしながら失敗の回数を減らすことが出来た。	排泄チェック表をつけ、利用者の生活パターンに合わせるにより定時誘導ができ、汚染や失禁が少なくなっている。トイレ前に木目の筆筒を置き、それに各々のパット類を入れてすぐ取り出せるようにしている。それ自体が家具となり、景観に違和感なく取り入れられている。利用者の本人の意向にて、病院と連携し、服薬調整で排便の失禁を減らすことができた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、毎日牛乳とヤクルトなどで自然排便を促す工夫を個別に行っている。体操、水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能なので、入浴曜日は職員が決めています。その日入らなかった人は次の日入って貰ってます。一日3～4人の入浴なのでゆっくり楽しんでもらっています。	個室でゆっくりと入浴ができ、心身ともに心地良い時間を提供している。また入浴時は、職員とマンツーマンでのコミュニケーションが図れる時間となっている。毎回必ず入浴を拒否される女性の利用者が居るとのことであるが、その方特有の職員とのコミュニケーションを取る為の自己主張であり、浴槽に浸かると「気持ちがいいね。」との声が聞かれる。職員も毎回どのような声掛けをしようかと楽しみにしているとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムにあわせた休息を取ってもらっています。夜間のトイレ時は水分補給も行い、寒い時は湯たんぽで足元を温めて安眠できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し全職員に分かるよう徹底している。服薬は必ず本人と職員2人で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の手伝い、洗濯物たたみ等進んでされる人にはお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。家族からの絵手紙はファイルにして、いつでも見れるようにそばに置いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の高齢化が進み外出できる人が限られているが、戸外へ花めぐりのドライブによく出かけます。その時は自宅周辺を通り住み慣れた場所を思い出してもらってます。ホームの庭先にも季節の花、野菜があり皆で出かけおやつを食べたりしている。	天気が良い時には、近隣をドライブしている。地域に住んでいた方が多く、懐かしがっているとのことである。年中行事で島原城の桜、菖蒲、紫陽花の季節の花めぐりを行っている。きれいな花々見物は、施設壁面の手作業の作品へと反映されている。毎年行われる8月24日の風除祭も地域住民が参加し、昔ながらの祭りにて利用者の楽しみとするところである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人だけ家族から小額のお金を預かり管理していたが気に入り職員に預ける。その後、家族に返す。祭りの時一人ひとりお金を手に取り賽銭箱に入れてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙がきたり、荷物が届くと必ず電話を掛けるか、手紙を書いてもらっている。宛名は職員が代筆する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの横が台所で、ご飯の炊ける匂い、包丁の音など家庭の雰囲気を感じる事が出来る。浴室も家庭用の作りになっておりゆっくり一人で利用でき、トイレ、洗面所も施設の両端に設けてあり混雑が解消される。	家庭的な雰囲気を目指すという理念に基づき、共用空間が自宅のリビングのように皆が集まってきている。TVを鑑賞したり、職員と歓談したり、作品を作ったりと、そこで思い思いの時間を過ごしている。施設全体明るく風通しも良く、心地良い風が入ってきている。壁面には、四季折々の手作りの作品が飾られている。職員手作りの外廊下のすのこや、牛乳パックの葉入れ、浴室の棚の提案等職員のアイデアも活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を配慮し気の合った利用者同士で過ごせるよう支援している。自分の居場所が決まっており、落ち着かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の書いた絵、俳句、家族との写真などいつも見える位置に貼り心地よく安心して過ごせるように工夫している。	居室は、明るく風通しの良いものとなっている。家族の写真や趣味の俳句や絵が飾られてあり、昔からよく聞いていた曲が聞けるカセットデッキも持ち込まれている。毎年敬老の日に施設から送られるメッセージの寄せ書きも居室に飾られ、枚数が増えてこられるのを楽しみとされている。使い慣れた馴染みの物と共に利用者が居心地よく安らぎを感じながら暮らしていける空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりの増設や必要な目印を付けたりと、物の配置に工夫している。殆どの利用者が施設内部の場所が分かっており行きたい所に向かい移動できている。		